



若者国際連合-14

～出よ、地球第一主義の政治家達

m o r i 3 5 8 0

北朝鮮がおとなしくしている。再会談を望んでいると伝えられ、アメリカ大統領プラント氏もそのように理解していると報じられた。アメリカの国務長官も、その準備のために北朝鮮を訪問するという。

一方、日本のフリージャーナリストが3年たって解放されたというニュースも入ってきた。釈放された当人と関係者の喜びは計り知れないと思う。まずは「おめでとう」と祝意を表したい。

私は第二次世界大戦中に米軍の東京大空襲により、当時住んでいた家と学校の校舎を焼かれた経験がある、現在（2018年）86歳であり、ラジオだけの時代からスマホの時代まで生きて来たので、時代の変化についてゆくだけで精一杯という生涯であった。そういう人が今後の生活についてとやかくいうのは遠慮した方がいいと思っている。ただ戦争体験だけは話して置き、戦争体験のない若い人たちに、今後の事はお任せした方がいいと思っている。戦争体験のない人が核戦争の脅威にさらされ、その対策に追われているのは気の毒である。見当違いも甚だしいという意見もあった、と思う。

人類は進化し、時代は激しく変わるのである。今後長生きできるのは若者である、互いに殺しあう戦争を選ぶのか、ともに長生きを喜び合う平和を選ぶのか、それは若者が決めることである。我々老人は判断材料を提供すればよいのである、と私は思っている。

まえがき

第一章 核問題を考える

- Q：北朝鮮がおとなしくしているね？
- Q：核問題はお先真っ暗？
- Q：日本の元首相が言うことが変わった？
- Q：ドイツの方針が変わった？
- Q：どの程度、過去にこだわるか？

第二章 アメリカはどう出るか

- Q：アメリカの中間選挙が終わったね？
- Q：トランプ氏は米国第一主義を続けられるか？
- Q：共和党支持者に働きかけず、選挙に勝ったのはすばらしい？
- Q：国民が懐かしむだけでなく、心底そうなるのを望んだら？
- Q：核兵器根絶はいつのことか？
- Q：宇宙からの突然の攻撃がないように？

第三章 宇宙時代にふさわしいルール

- Q：なにを真っ先に話し合うか？
- Q：頭の上を他国の宇宙船が行き来するのは気持ち悪い？
- Q：たくさんの意見をまとめるのは大変だ？
- Q：大気圏再突入の際の高温対策も話し合われるだろうね？
- Q：防衛族は気が早い？
- Q：他には？

第四章 やっぱり地球はいいね

- Q：宇宙飛行士が言った。「地球は青い」？
- Q：大国がふらふらしているのは困る？
- Q：「地球第一主義」を今唱えれば有名になるのに？
- Q：きれいな空気や水も必要だろう？
- Q：他の惑星に住むことを考えれば？

Q：戦争は最大の環境破壊と言われるが...？

あとがき

第一章 核問題を考える

Q：このところ北朝鮮はおとなしくしているね。アメリカとの再会談を望んでいると伝えられたが...？

A：北朝鮮は現在の政治体制の維持だけを望んでいると聞いたが、未来に向かって、アメリカを中心とした国際社会の同意を得たいと考えているようだ。それならば、なにも核爆弾の発射ボタンを押すことはないのではないか。アメリカを話し合いの席に着かせるだけなら、国連の決議に違反しながらひそかに核研究を続けることもなかったようだ。距離的に核兵器が米本土に届く実験を見れば、アメリカは話し合いに応じると思っただけだが、トランプ氏の冷静な判断によりそれはなかった、ことが判明した。

そして核爆弾のもう一つの問題。宇宙からの攻撃の際、核爆弾が大気圏再突入にともなう高熱に耐え切れず、自己爆破してしまう技術的な解決方法の問題がある。北朝鮮は核弾頭の小型化・軽量化の技術がそれをクリアしたと発表しているが、アメリカを中心とした国際社会の技術者は疑問視している。

Q：あなたはそれを指摘しているね。これが解決しないと、核問題はお先真っ暗・・・？。

A：広島・長崎で使われて以来72年もたっているのだから、研究や開発は進んでいると思う。「人間が月に立った」と喜んでばかりいないで、宇宙時代にふさわしいルールづくりのための話し合いを始めるべきだったと思う。その時言われたのが「これから100年もかかる技術的問題」である。

Q：現在その問題はクリアしているのかどうかは分からない。どこがクリアしているのかも分からない。これは大事なことだね・・・？

A：核問題で話し合いをするよりも大事なことと思う。かりに北朝鮮だけがクリアしているとすれば、話し合いは相当難しくなる可能性がある。アメリカは広島・長崎以来、核爆弾ではトップを走ってきたのだから、まさかとは思うけれど・・・。

核問題はすでに20世紀のもの、過去のものという考えもある。軍事利用ばかりでなく、平和利用の面でもいまだに廃棄物の捨て所も決まらない、100年先の後輩に迷惑をかけない確証もない、という状況では何とも言えないのではないか。核問題の推進者であった日本の元首相が最近言うことが変わってきた、という。フィンランドで核のゴミ捨て場を見て変わった、という報道だ。

核は人間の触れてはならないものという意見だ。

Q:ドイツのメルケル首相が日本の福島原発事故のあと、原発から手を引く方針に変わったが・・・？

A:いつか世界的な傾向となるだろう。最近動きが激しく、スピードアップされているので、その時期は思うより早いかもしれない。いまだに正体をつかめぬまま、人類全滅に十分なほどの質量を持ってしまった悲劇である。それに気づいた国もあれば、まだまだ核兵器が戦争の抑止力になると考えている国もある。

激変の時代で難しいのは国によって、人によって同じことでも感じ方が異なるという点だ。これは大切なことだが、まだルールらしきものも決まっていはいない。「若者国際連合」もひとつの提案だが、これから若い人を中心に、色々提案があると思う。この世の中に長くいる予定の人（こども・わかもの）ほど優遇されなければ、と思う。現実にはこれからの世の中のことを、過去にとらわれて判断する傾向があるということだ。過去は無視できないが、参考にはなる、と思う。

Q:どの程度過去にとらわれるか、これは難しい問題・・・？

A:私は第二次大戦のとき米軍機の空爆に、うちと学校の校舎を焼かれた被害者なので、うちの燃える姿を思い出すといつまでも許せない気がする。しかし地球上のみんながそれを言い出すのがよいのかどうか、その時にはまだ生まれていなかった若者や子供がどう判断するか聞いて見たい、と思っている。個人の歴史に限らず、国や地域の歴史を考えれば、収集つかなくなることも考えられる。個人・団体や国家・地域もふくめれば、すごいことになる。これはできないことだ。40歳以下の若者の考えに任せるのも一つの方法である。

激変の時代には一つのルールが必要だろう。進歩をやめることはできないから、話し合いによるルールづくりだろう。現在の国連は第二次大戦を引きずっているのが欠点だ。この際再考すべきだ、という意見もある。

第二章 アメリカはどう出るか

Q：アメリカの中間選挙が終わったね？

A：トランプ大統領は「大勝利...」と言ってるそうだが、下院の過半数を野党に取られて、これから議会運営が大変だと思うがね。そういう報道が多かったようだ。

Q：トランプ氏もこれまでと同じように「米国第一主義」では行かないだろう、という説が多かったように思うが...？

A：上院が賛成下院が反対という場面が多くなるだろう、とは推察できる。それをトランプ氏がどう乗り切るか、全世界が注目するだろう。中間選挙の結果について、なぜこうなったのか、これから詳しく検討されるだろう。

ある民主党の女性候補者が言ったと伝えられたが、米国第一主義がもう通用しない、ことを心配する有権者がいることだ。「移民・難民はこれまで投票に行かなかったが（稼ぎに追われて投票に行けなかったが）この人たちを中心に投票に行くように働きかけただけだ。結果として私が当選し下院での民主党の勝利につながった、と思う。」

Q：共和党の支持者に民主党に鞍替えするような選挙運動はせず、選挙に勝ったのは素晴らしい...？

A：移民・難民のように、生活に追われて選挙にも行けない人は多いから、そのひとたちにむけて選挙活動をするのはいいのではないか？根っからの共和党支持者に向けて「投票に行け」というような活動は失礼であり、分断を促進するかもしれない。投票に行け、という運動は民主主義を広めるのに役立つことかもしれない。ここに一つのヒントがあるのかもしれない。大多数の人はその日暮らさじだろうから、「絶対多数の絶対幸福」を狙うなら、「投票に行け」という運動もおもしろいのではないか。

それをやってみる価値はあるだろうし、これまでもやって来たと思う。それがこれまでは成功せず今回一つの事例に過ぎないともいえるが、時代の要請かもしれない。そういう時代になってきたということもいえる。「植民地は悪」だと今ならいえるが、そうでなかった時代もあった。日本も台湾や朝鮮を植民地とした時代もあった。

Q：ただ国民がその頃を懐かしみ、その時代に戻すことを望んでいる場合にはどうか？

A：アメリカの場合、白人たちの一部にはそう思っている人もいるようだが、圧倒的な武力を誇り、自分たちに有利に事を運ぶ時代ではないといたい。核兵器で軍事力を誇れば、時代遅れと世界から失笑を受けるだけだ。

プラント氏は商売人である。時代や雰囲気を読むのがうまい。これまで北朝鮮に対話路線を貫いてきただけでもよしとしなければならない、と私は思っている。核兵器根絶には時間がかかる。

Q：核兵器は根絶したいが、時間がかかる。その時期だが・・・？

A：核兵器不使用、まもなく73年になる。100年ももうすぐだ。せつかく対話路線が支持されるようになってきたのだから対話は続けたい、と思う。あまり核兵器根絶を早くとも国際世論がうるさく言うと、逆の結果を招きかねないと心配している。戦前はまさにそうだったと思う。今は静かにしている方が良くように思っている。

Q：静かにしている方が良く、という主張は分かったが、アメリカの有権者がどう考えているか...？

A：それによるね。アメリカの有権者が時代遅れの世界一の軍事力を誇り、物事を万事有利に運ぶことを希望し続けたら、他の国が黙っているはずがないだろう、戦争モードに逆戻りだろう。中間選挙といえども全世界が注目するのは、そういうムードが全世界に広がっているともいえるのではないか。

アメリカの有権者の中には、トランプ流の「米国第一主義」は泥臭い、恥ずかしいと感じる人も多くいたらしい。世論は健全だと思う。

アメリカの有権者のなかにも、この宇宙時代に、地球上で争っているだけでいいのかという疑問を持つ人がいて、今回の中間選挙にその結果として現れたという分析だ。アメリカの有権者も今はどちらが良いか迷っているのではないか？アメリカの歴史そのものが、圧倒的な軍事力によって発展してきたのだから、これは時間がかかる、と覚悟しなければならない。しかし、アメリカそのものが商売人だから、プラント氏同様気付くのは早いかもしれない。

Q：経済がグローバルになり、貿易力が国力を創る時代に、宇宙時代にふさわしいルールが必要だね...？ある日突然宇宙から攻撃されないためにもね？

A：宇宙時代にふさわしいルールは必要だね。何をルールとするかは若い人たちにお任せするしかないが、一章設けて検討したい。

第三章 宇宙時代にふさわしいルール

Q：話し合いのムードが出てきたところで、何を真っ先に話し合う？

A：当然国際問題からになるだろう。各国が何に興味を持っているか、なにを一番恐れているか、も参考にしたい。

Q：頭の上を他国の宇宙船が行き来するのは気持ち悪い、という国はあると思う？

A：頭の上何キロまでは領域、それから上は公域と決めておくのがいいのではないかと。地上では決まっていると聞いたが、比較的順守されていると聞いたことがある。

Q：現在、天気予報やカーナビでお世話になっているから、各国の意見をまとめるのも大変だろうが...？

A：まとめるのは苦労だろうが、やはりやらなければならない。平和利用といっても、爆弾を忍ばせる事もできるから。その他に大気圏再突入に際しての高熱問題の技術的解決にはどうするか、これも話し合わなければならないだろうが、こちらの方が大事で難しいともいえる。宇宙からの攻撃に対する防御面では、攻撃用のミサイルが発射後迎撃するそうだが、間に合うかどうか？いちどに10発以上も発射されたら、とても間に合わないと思うよ。

それに、迎撃に成功したとしても、攻撃用ミサイルの核弾頭にはなにがあるかわからない。放射能を宇宙空間にばらまくことごとになったら、どちらがいいか即断できない。

Q：効果さえはつきりしないのに、もう取り入れる方向で検討されている。

防衛族は気が早い・・・？

A：効果さえはつきりしないのに、購入予算さえ決まらないのに、防衛族は走りだしている。これが戦争への道である。せっかく持っているのだから、使ってみようと戦争になる。

Q：宇宙時代にふさわしい国際ルールを創ろうと、話し合いを始めようという時に...？

A：これまでの世界大戦では、開戦のきっかけまではわかっていない。そういうこともある、ということさ。とにかく静かにおとなしくしている方がいいとはいえる。話し合い歓迎のムードは大切だと思う。

Q：他には...？

A：「若者国際連合」の中で出てきた話は、できるだけ取り上げるようにしたい。これから長く生きる可能性のある若者や子供の気持ちを尊重したい。「若者や子供」に生きる希望を持たせなければならない、と思っている。

第四章 やっぱり地球はいいね

Q：宇宙飛行士が「地球は青い」「地球は美しい」と言ったと伝えられたが、一時世界的な流行語になったこともあった...？

A：宇宙時代に、地球の見直しがあったね。「青い地球」「美しい地球」を守ろうと、世界的に環境政策に力を入れた。環境保護のために、各国が集まり、国際会議をひらき目標値を定めたこともあった。最近アメリカ大統領のトランプ氏が、その取り決めから離脱するかもしれない、と伝えられた。いろいろ問題のあるトランプ氏だが、中間選挙前にあの発言はどうだったか？これからも要所には選挙がある。

Q：環境は大切だが、影響力のある大国がふらふらしては困る、という声もある...？

A：トランプ氏は、これからも自分の意見と有権者の意見との整合性に悩むことだろう。要所要所には選挙が待っている。当選しなければ元も子もない。選挙のたびに悩むだろう。しかしそうやって政治家は育っていくのだから...？トランプ氏ももう少し時間が必要だろう。

温暖化の問題でも島国では深刻だろう。地球温暖化のために、海水が溶け出し領土が水没するという状況の国は深刻だろう。パリ協定からアメリカが離脱するというのは許せない、という声もある...。

アメリカは「米国第一主義」から遠いものは後まわしにする気だろう。そのまえに選挙があれば別だろうが...。有権者は「米国第一主義」が世界で今後も通用するとは考えていないようだから...。大国のアメリカがパリ協定から離脱するなんて、世界の常識では考えられないからね。

Q：「地球第一主義」を真っ先に誰かが唱えれば、世界連邦の指導者になるかもしれないのに...？

A：地球はなんていっても長年住み慣れたところだからね。地球の未来は暗いといっても、私は地球に住み続けたいと思う。世界には私のように考える人もいるだろう。今後の生き方が問題になる、というだけさ。これまでと同じように、ガソリンをふんだんに使えば温暖化は進むだろうが、車の燃料もひとりひとりが気を遣えばいいし、そんなに不自由なことは無い。重力や空気がなければ困るが...？

Q：温暖化の問題以外にも、人間が生きるためには、きれいな空気や水も必要だが...？

A：空気や水を汚さないことも大切だね。しかし空気や水を汚すことでなりたっている産業もあるから難しい、と思う。だいたい欧米の考え方の基本には「自然は征服するもの」とあるから、「人間は自然の一部」という東洋人の考え方の基本とは違う。ここから話し合わなければならないのは時間がかかる。

Q：これまでの生き方を一人一人が変えなければならない、となると、それは大変だが、生き残るためには人類はしょうがない...？

A：他の惑星に住むことを考えれば、まだいいとなるよ。70億人の難民となると、想像もつかない。この地球をもっと大事に使ったほうがいいという結論になる。

Q：戦争は最大の環境破壊といわれるけど、第二次世界大戦でせっかく創った良い環境も随分破壊されたね...？

A：もうこれからは戦争はできない。人類全滅につながる恐れのある核兵器は使えない、と強く言っておく。これは21世紀の国際常識になっている。地球環境はすばらしい、もっと大切にしたい。

全世界で環境のために地道な活動している人は多くいる。これらの人をがっかりさせないでほしいとトランプ氏に言いたい。これまでと同じ地球上で生活できれば有難いと思う人は多いと思う。もっと地球に感謝し、大事に思おう。その気持ちを行動に表わそう。

やっと書き終わりました。年々つらくなってきます。加齢によって、衰えを感じるのは、自然の現象だと思っていました。ところが実際には一年ずつ平均して衰えるのではなく、ある年突然衰えるものと知りました。これでは先のことを考え、皆様にご提案しようということはできません。そこで考えたのが「若者国際連合」です。生まれた当時知らなかったことを、できるだけ正確に忠実に知らせることを心がけました。これを読んで、今後のことを判断してほしいと考えました。戦争を知らない人が軍備のことを決める世の中です。過去とどうつきあうか、見本を見せて下さい。これからも折に触れて無料公開するつもりです。（2018.11.17）

その他の公開中の本（mori3580）

[若者国際連合－13 ～地球第一主義](#)

[若者国際連合－12 ～宇宙時代のルール創り](#)

[若者国際連合－11 ～再び北・核ミサイルの件](#)

[若者国際連合－10 ～北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合－9 ～核ミサイルにどう対応するか](#)

[若者国際連合－8 ～今はただ我慢比べ](#)

[若者国際連合－7 ～丸腰は撃たない](#)

[若者国際連合－6 ～とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合－5 ～トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合－4 ～国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合－3 ～若連が世界を変える](#)

[若者国際連合－2 ～若連が動き始めた](#)

[若者国際連合](#)

[若者が目覚めた](#)

[みんな目覚めた](#)

[みんな生きる](#)

[テロをなくす](#)

[戦争は怖い！ ～東京大空襲体験者からの平和のメッセージ](#)

若者国際連合－14

<http://p.booklog.jp/book/123133>

著者 : mori3580

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/mori3580/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/123133>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト